ラーメンから歴史まで
杉並を多角的に学べる「すぎなみ学倶楽部」

すぎなみ学倶楽部
TOP ページ

情報収集・資料活用に

杉並区内の歴史、寺社、まつり、イベント、自然など、区民ライターが選んだ杉並区の魅力を、ジャンルごとにわかりやすく紹介しています。掲載している写真や記事の貸し出しについては当サイト内の「本サイトについて」をご覧ください。

調べごと・見学先のヒントに

「ゆかりの人々」コーナーでは、杉並区にゆかりのある著名人や地域活動者などを紹介しています。また、「産業・商業」コーナーでは、杉並区内の個性的な企業、老舗から新鋭の店舗まで紹介しています。

なみすけ公式
インスタグラム

杉並区公式アニメキャラクターなみすけのインスタグラムでは、なみすけが杉並区の魅力を写真で紹介。着ぐるみ出演イベント、なみすけグッズ情報、４コママンガも掲載しています。

なみすけ
インスタグラム

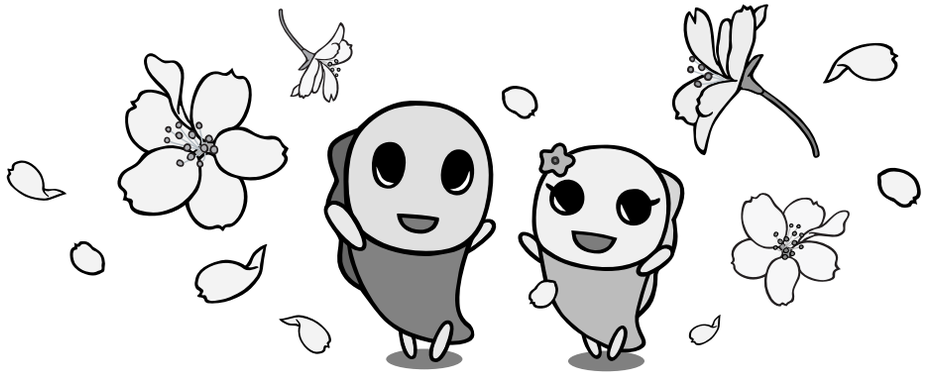
すぎなみ学倶楽部 ダイジェストブック2021
令和3年3月発行

登録印刷物番号
02-0104

発　　行　杉並区区民生活部産業振興センター観光係
問い合わせ　〒167-0043 上荻1丁目2番1号　Daiwa荻窪タワー2階
電話 03-5347-9184
編集・レイアウト　特定非営利活動法人 チューニング・フォー・ザ・フューチャー
取材・執筆・撮影　杉並区民ライター

杉並区公式情報サイト

すぎなみ学倶楽部 ダイジェストブック 2021



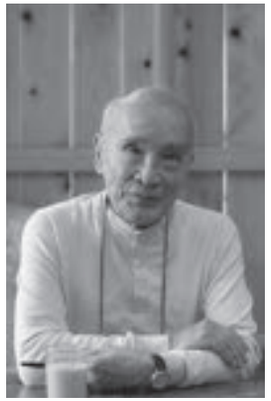
杉並区公式情報サイト「すぎなみ学倶楽部」は
区民ライターが杉並のさまざまな魅力を発掘し、発信しているウェブサイトです。
本冊子では、ウェブサイトに掲載している記事の一部を紹介しています。

www.suginamigaku.org

詩人・谷川俊太郎さんインタビュー

田んぼや畑に囲まれて育った子供時代

「僕が生まれた 1931（昭和６）年に、東京府豊多摩郡杉並町（現杉並区）に両親が家を定めて、そこからずっとこの場所で育ちました。小学校時代は、冬に凍った田んぼをまっすぐ突っ切って、尾崎（現杉並区成田西）の丘の上にある、杉並第二小学校（旧杉並第二尋常小学校）に通学するのが楽しかった。当時、家の周りは広々とした田んぼや畑に囲まれていて、そういう景色はやっぱり良いなと思います。戦後に阿佐ヶ谷の団地ができる前は、ここから富士山が見えていたことも、よく覚えています」



（写真左）アニメ「鉄腕アトム」の主題歌の作詞など、数多くの作品を手掛けた谷川俊太郎さん　（写真中）40 代の頃の谷川さんと近所に住む生活評論家の吉沢久子さん　（写真右）愛用のマックブック

写真解説

庭の草木を眺めながら言葉が湧いて来るのを待つ谷川さん

「今は、ゆっくりと推敲（すいこう）するのが楽しいです。僕が捉える「詩」には、「Art（アート）」の面と「Craft（クラフト）」の面というのがあって、僕は民芸・手仕事的な「Craft」の部分に興味があります。文字をいろいろと組み合わせたりして、ピタっとはまる言葉を見つける作業ですね。日々、スマートフォンに入っている『広辞苑』を使って、マックブックで詩を推敲しています。よく意外だと言われますが、僕はだいぶ前からワープロで文字を打ち込んで詩を作っています。」

詳しくは　WEBサイト「すぎなみ学倶楽部」へ

ゆかりの人々＞著名人に聞く 私と杉並＞谷川俊太郎さん

取材：加藤智子

撮影：TFF、深堀瑞穂　写真提供：谷川俊太郎

初掲：2020 年 11 月 09 日

アニメ「鉄腕アトム」と「オバケのQ太郎」の誕生

1962（昭和 37）年、漫画家・手塚治虫さんが練馬区富士見台に虫プロダクションを設立。翌年、テレビアニメ「鉄腕アトム」を制作、放映された。「それまでの手法では、30 分のアニメを作るのは大変な作業だったので、アトムが毎週放映になるなんて信じられない世界でした」と話すのは、東京工芸大学 杉並アニメーションミュージアム（※）の鈴木伸一館長。「手塚さんはリミテッドアニメといって、口だけパクパク動かすなど、極力省略して作っていったんですね」

1964（昭和 39）年 10 月、杉並に初めてアニメ制作会社東京ムービー（現トムス・エンタテインメント）が誕生し、翌年、杉並生まれのアニメ第１作「オバケのＱ太郎」が放映された。「アトム」の影響でＳＦアクションものが多かったテレビアニメ界に突如登場した「オバＱ」は、素朴な笑いと心温まるストーリーが子供たちに人気となり、大ブームを起こした。

※2018（平成 30）年９月からネーミングライツを導入

（写真左）「オバケのＱ太郎」に登場するキャラクター、いつもラーメンを食べている「小池さん」のモデルにもなった鈴木館長　（写真右）1967（昭和 42）年頃のスタジオゼロとゼロのスタッフ。鈴木館長も設立メンバーの一人

写真解説

日本のアニメを知るならココ！

2005（平成 17）年３月、荻窪に杉並アニメーションミュージアムが開館した。ミュージアムでは、歴史を学ぶだけでなく、アニメの制作工程の体験ができたり、さまざまな形でアニメを楽しんだりできる。

詳しくは　WEBサイト「すぎなみ学倶楽部」へ

歴史＞アニメのまちができるまで＞１．杉並アニメーションミュージアムの誕生

取材：坂田、みやうちえいこ

撮影：TFF　写真提供：鈴木伸一さん

初掲：2016 年 12 月 14 日

謎の吉田園　杉並のスケート場

大正初期〜昭和初期、下高井戸に吉田園という屋外のスケート場があった。創業者の孫・吉田哲夫氏は、「昔、ここら辺には玉川上水から綺麗な水が流れていて、寒冷地だったので祖父は製氷をやってたんですね。土着民だから土地を持ってたのでそこを公園にして、それから遊園地とスケート場に。この下高井戸に当時の流行の先取りみたいな所を作るって、爺さん張り切っちゃったみたいで（笑）、音楽隊とか作ってね。（中略）市民の憩いの場っていうのかな、そういうのを目指してたんだと思う」と語る。

（写真左）「吉田園伝聞図」。1919（大正８）年に遠足に訪れた女学校の『遠足の栞（しおり）』には「園は風光絶好にして丘あり。谷あり、池あり、滝あり、広き運動場、茶亭等もありて小遠足地として好適の場所なり」と掲載されている　（写真右）在りし日の吉田氷製造所の水源地

写真解説

吉田園でスケートを楽しむ貴族・華族

哲夫氏によると、アイススケート場の前は製氷場であったという。この頃の下高井戸は現在より気温は低く冬には霜柱ができる程で、特にこのスケート場あたりは杉並木に日光が遮られる北斜面で、玉川上水からの清水があったため良い氷を作ることができ、切り出された氷は都心宛に送られていた。創始者の甚五郎氏は、鳩山由紀夫元総理大臣の４代前の方々（和夫氏など）と親しかったこともあり、吉田園のスケート場で貴族・華族の面々が三つ揃（ぞろ）いや着物姿でスケートを楽しむ姿も記録され、東京名所の絵葉書にもなっていた。

詳しくは　WEBサイト「すぎなみ学倶楽部」へ

歴史＞記録に残したい歴史＞謎の吉田園　杉並のスケート場（１）、（２）

取材：荒倉朋子

資料提供：上妻絢子さん、山田芳江さん

初掲：2010 年 01 月 14 日

女性飛行士を生んだ亜細亜航空学校

1933（昭和 8）年 4 月、中島飛行機東京工場正門前の豊多摩郡井荻町上井草 1595（現在の杉並区上荻４丁目）に、亜細亜航空学校と亜細亜航空機関学校が誕生した。
校長の飯沼金太郎は、女性の操縦士志願者にも理解を示し、航空雑誌の募集広告で女子学生へも入校を呼びかけている。そのこともあって、開校当時からいた馬淵テフ子、徳田雅子に続き、松本キク子、諏訪（すわ）みつゑ、木下喜代子、村上繁子が入校。女子６名となり、なかなかのにぎわいであった。

（写真左）飯沼金太郎。国内有数の民間航空学校・機関学校を設立し、校長として日本民間航空界の人材育成に貢献　（写真右）飛行機に搭乗、飛行直前の飯沼の長女、妙子さん

写真解説

馬淵テフ子に花束を渡す飯沼の長女､妙子さん

1934（昭和９）年 10 月 22 日､日本・満洲親善飛行のため､松本キク子は白菊号に搭乗。羽田を離陸し、11 月４日に満洲新京（現在の長春）に到着、無事成功した。海外飛行を行った日本人女性は、松本が最初である。続いて、馬淵テフ子も「黄蝶号」（機種は、白菊号と同じ）に搭乗し、同年 10 月 26 日に羽田を離陸、11 月５日に新京に着陸した。亜細亜航空学校は、女性２人が海外飛行に成功するという快挙を成し遂げたのである。

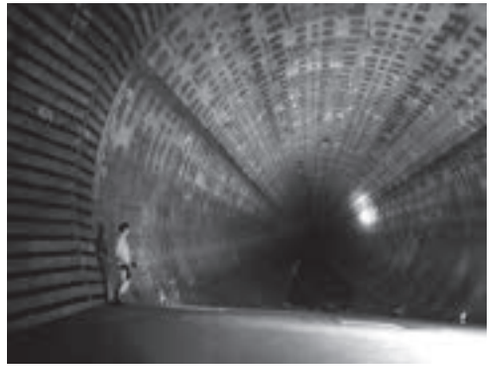
詳しくは　WEBサイト「すぎなみ学倶楽部」へ

ゆかりの人々＞知られざる偉人＞飯沼金太郎さん
取材：佐野昭義
写真提供：大谷妙子さん
初掲：2015 年 11 月 30 日

区民を守る杉並の水害対策

杉並区の防災について特に知っておきたいのは水害対策だ。妙正寺川、善福寺川、神田川と３つの川が流れている杉並は、昔から浸水被害に悩まされてきた。また近年は、都市化が進んだことによる雨水の地下への浸透量の減少や、ゲリラ豪雨などの気候変動による浸水被害も、区内各所で時々みられる。

2008（平成 20）年３月、環状七号線の地下にある「神田川・環状七号線地下調節池」が本格稼働し、善福寺川流域の水害の軽減に大きな効果をもたらした。このような水害対策のための下水道浸水対策整備工事や調整池の建設などハード面の整備は、東京都や杉並区によって現在も進められている。



（写真左）2011（平成 23）年８月 26 日の大雨で冠水した阿佐ケ谷駅付近　（写真右）「神田川･環状七号線地下調節池」本体のトンネル。内径 12.5 m

写真解説

「神田川･環状七号線地下調節池」を見学

施設の長い階段を通って地下へ下りる。たまった水の圧力に耐える二重扉をくぐり、流入孔と調節池本体とをつなぐ導水連絡管へ入った。ここからは真っ暗なので、職員のサーチライトが頼りだ。約 150m 歩くと調節池本体に出た。総量 54 万トンの水を貯められるほど大きなトンネルが、環七の真下にあることを知り、不思議な気持ちになる。この調節池が満水になったことが１回だけあるそうだ。2013（平成 25）年９月の台風 18 号 のときだったという。

詳しくは　WEBサイト「すぎなみ学倶楽部」へ

特集＞災害・防災
取材：とりの、雪ノ上ケイ子
撮影：とりの、TFF
初掲：2014 年 12 月 01 日

商店街と地域の人々が協力し、祭りを開催

「阿佐谷七夕まつり」は、1954（昭和 29）年に阿佐ケ谷駅南口の阿佐谷パールセンターで始まった。世相を映す巨大なはりぼては見ごたえがあり、パールセンターからすずらん通りまでずらりと並ぶ屋台も楽しめる。

1957（昭和 32）年８月、現在の高円寺パル商店街振興組合に青年部が誕生した記念行事として、阿佐谷七夕まつりに対抗するべく阿波踊りを行うことになった。ところが阿波踊りの経験者がいるわけでもなく、本番のおはやしはチンドン屋に頼み、演奏されたのは「佐渡おけさ」のリズムだった。1961（昭和 36）年、徳島県人会で結成された「木場連」と巡り会い、当時連長であった鴨川長二氏に阿波踊りの手ほどきしていただき、本格的な阿波踊りが始まった。

（写真左）「阿佐谷七夕まつり」は例年８月初旬の５日間開催　（写真右）2019（平成 31）年の「東京高円寺阿波おどり台湾公演」。台北市の観光スポット「松山慈祐宮（まつやまじゆうぐう）」の周辺で舞い踊った

写真解説

さまざまな「連」が参加する「東京高円寺阿波おどり」

参加者 38 名・観客２千人からスタートした阿波おどりは、今や８カ所の演舞場で約１万人の踊り手が踊り、見物客 100 万人あまりを動員する大きなイベントへと成長した。また、地域の文化を海外に発信していくために、2015（平成 27）年より「東京高円寺阿波おどり台湾公演」も行っている。

詳しくは　WEBサイト「すぎなみ学倶楽部」へ

文化・雑学＞杉並のイベント＞阿佐谷七夕まつり、東京高円寺阿波おどり

取材：小泊明美、高橋 pinoco、西永福丸

撮影：TFF　写真提供：東京高円寺阿波おどり

初掲：2008 年 12 月 19 日

ゆかりの人々

杉並区にゆかりのある人々を紹介。第一線で活躍する現役のタレントや作家、知る人ぞ知る「知られざる偉人」（故人）、専門分野でめざましい活躍をする地域活動者、100歳を超える現役女流画家など、地元愛を感じるコンテンツ。

●著名人に聞く 私と杉並

谷川俊太郎	詩人。デビュー以来、第一線で活躍
角田光代	直木賞作家。ベストセラー多数（西荻窪）
金田一秀穂	言語学者。テレビでも活躍（阿佐ケ谷）
勅使川原三郎	国際的ダンサー・振付家（荻窪）
マシュー・チョジック	アメリカ出身のタレント（阿佐ケ谷）
輪島功一	元ボクシング世界チャンピオン（西荻窪）
増子直純	ロックバンド「怒髪天」を牽引（西荻窪）
有吉玉青	作家。母有吉佐和子との思い出
久住昌之	漫画家・ミュージシャン
具志堅用高	元ボクシング世界チャンピオン（西永福）
水道橋博士	タレント・作家（高円寺）
津田大介	ジャーナリスト。ネット世代の代表（高円寺）
横山健	ミュージシャン・ギタリスト（高井戸）
ねじめ正一	作家・詩人（阿佐ケ谷・高円寺）
林家木久扇	落語家。「笑点」のレギュラー（西荻窪）
山下洋輔	世界的ジャズピアニスト（阿佐ケ谷）

●知られざる偉人

森泰樹	杉並の郷土史研究を牽引
北原怜子	社会奉仕家「蟻の街のマリア」（阿佐ケ谷）
有馬頼寧	有馬記念を創った華族政治家（荻窪）
下中弥三郎	平凡社の創業者（阿佐ケ谷）
石山太柏	武蔵野の風景を愛した日本画家（荻窪）
江渡狄嶺	大正時代に活躍した農の哲人（高井戸）
関村ミキ	江渡狄嶺を支えた妻（高井戸）
手塚忠四郎	芸術の領域に達した左官職人（方南町）
飯沼金太郎	パイロット、民間航空学校を設立（西荻窪）
田河水泡	漫画家。『のらくろ』の生みの親（荻窪）
奥村土牛	大正・昭和を代表する日本画家（西永福）
中西悟堂	日本野鳥の会創設者（西荻窪）
小川未明	日本のアンデルセンと呼ばれた童話作家（東高円寺）
山本美香	最後まで戦場を伝えたジャーナリスト（荻窪）
南雲武門	地域情報新聞「杉並町報」を創刊（阿佐ケ谷）

【その他のカテゴリ】

道を究める	特定分野のスペシャリスト
芸術家たち	創作・芸術の道で生きる
教育を支える	教育現場や教育支援に関わる
地域をつなぐ	地域活動等で人や物事をつなぐ
まちのアーティスト	若手作家やパフォーマンサー
スポーツに携わる	スポーツや健康問題に取り組む
経営者・起業家	唯一無二を目指す企業家
杉並を駆け抜けた人々	一時期を杉並で暮らした文化人

杉並の産業・商業

戦禍を乗り越えた老舗企業・商店、都市型産業・商業・農業、人物を紹介。伝統職能を生かし都会で働く職人、杉並に多いアニメーション業界（2016年度138社）など、日常の生活では出会うことの少ない産業や職業、意外な名物企業がわかる。

●杉並の企業

（株）インディーズゼロ	ゲーム開発を手掛ける（荻窪）
杉並児童合唱団	「杉児」の愛称で知られる合唱団（西荻窪）
（株）リイド社	『ゴルゴ13』のコミックを出版（高円寺）
日都産業（株）	遊具・健康器具メーカー（西荻窪）
東信水産（株）	荻窪タウンセブンの名店（荻窪）
（株）チャイルド社	保育園経営と保育誌の出版（荻窪）
（株）タマス	卓球用品のトップブランド（南阿佐ケ谷）
オーデリック（株）	照明器具の専業メーカー（高井戸）
根本特殊化学（株）	夜光塗装加工と販売（高井戸）
サミット（株）	区内に９店舗あるスーパー（西永福）
丸美屋食品工業（株）	「のりたま」でお馴染み（西荻窪）
（株）細田工務店	木造戸建住宅メーカー（阿佐ケ谷）
（株）カノウプス	国内外で人気のドラムを製造（高井戸）
岩崎通信機（株）	大手通信機器メーカー（久我山）
マグナ通信工業（株）	セキュリティ機器の開発・施工（永福町）
（株）ヴァル研究所	元祖、路線検索ソフトを開発（高円寺）
（株）パナ・ケミカル	発泡スチロールのリサイクル（八幡山）
（株）アイネットホールディングス	ショールームのある菓子問屋（永福町）
ケンコーマヨネーズ（株）	業務用総菜、調理ソースを販売（高井戸）

●老舗企業・老舗商店

いづみ工芸店	棟方志功も通った工芸品店（荻窪）
カナモノワタナベ	太宰治の小説にも登場（阿佐ケ谷）
竹清堂	進化する竹工芸の店（桜上水）

ビリヤード山崎	日本最古級のビリヤード場（西荻窪）
前田豊吉商店	創業300年、鍼灸鍼の老舗（荻窪）
石井薬局	ニーズに応え続ける薬局（阿佐ケ谷）
万田サイクル	山あり谷ありの自転車屋稼業（荻窪）
三原堂	愛される昔ながらの和菓子店（西荻窪）
酒ノみつや	長年信頼されてきた酒店（阿佐ケ谷）

【その他のカテゴリ】

杉並の農業	都市農業の様子と伝統野菜の研究
杉並のアニメ	制作会社のポリシーやチャレンジ
記憶に残したい伝統職	和裁士、扇師など、希少な職人の姿
杉並モノ語り年表	1960～1990年代を支えた企業

歴　史

後世に伝えたい、残したい杉並の歴史を紹介。杉並にもあった「二・二六事件」、「中島飛行機」の軌跡、ラストエンペラーの実弟に嫁いだ令嬢「嵯峨浩」など、歴史的事象の証言集・記録集や、惜しまれつつ消えてしまった杉並名物の復刻活動など、区民の気になる歴史を掘り下げる。

杉並の変遷
記録に残したい歴史
【証言集】中島飛行機 軌跡と痕跡
【証言集】アンネのバラ 咲かせ続ける平和の願い
【証言集】杉並の養蚕と蚕糸試験場
アニメのまちができるまで
杉並名品復活プロジェクト
【記録集】杉並にも公民館があった
杉並区に残る戦争のつめ跡
【証言集】戦争体験
「杉並町報」で知る昭和４年の杉並
歴史資料集
道具に見る昭和の暮らし

食

杉並の区民ライターがすすめるレストランなど、合計280店以上の情報をジャンル別で紹介。老舗の名物、隠れ家的カフェ、こだわりのスイーツはもちろん、激戦のラーメン店も約70軒を紹介。

ラーメン／カレー／スイーツ／喫茶店（イートイン含む）／ベーカリー／レストラン／総菜・飲料・その他

スポーツ

杉並発祥のスポーツ、楽しみ方などを幅広く紹介。杉並とオリパラの関係や、近年人気のラグビーを楽しむさまざまな団体も紹介している。スポーツの奥深さが実感できるコンテンツ。

杉並のオリンピック・パラリンピック／ラグビー／野球／サッカー／マラソン／格闘技／ガーデンゴルフ／ボウリング／水泳／ラジオ体操／運動会攻略／ その他のスポーツ情報

文化・雑学

文化的なまち、杉並にふさわしい情報が満載。杉並を舞台にした文芸や漫画、杉並らしいおみやげ、著名人や外国人のお気に入り散歩コースなどを紹介する。また、年末年始や秋の例大祭など超ローカルな寺社情報は、役立ち度ナンバーワン。

杉並の寺社／読書のススメ－杉並ゆかりの本／なみすけグッズ／杉並のキャラクター／てくてく×なみすけ Part3／杉並のイベント／杉並まちあるき／杉並のさまざまな施設／杉並グッズ／杉並の交流自治体 ／杉並の保養施設・宿泊施設／杉並の景観を彩る建築物／杉並のアートスポット／杉並の古書店／杉並の芸能／杉並イチバン

自　然

荻窪で発見された絶滅危惧種や、杉並をねじろにする野鳥など、都会の自然に親しめるコンテンツ。「日本のファーブル」と呼ばれる故須田孫七さんの解説つき「杉並メダカ」や「トンボ」をはじめ、セミの羽化観察やヤゴ救出作戦など、地域密着の自然情報が満載。

野鳥／杉並メダカ／トンボ／セミ／貴重木／おどろき、もものき、杉並の木

特　集

ジャンル外の特集記事のほか、「広報すぎなみ」に連載している「すぎなみ学倶楽部コラム」のバックナンバーを、2010年度版からアーカイブとして掲載。

お花見ポイント／公園に行こう／災害・防災／杉並の教育／杉並の専門学校／杉並の私立高等学校／杉並の地域活動／広報すぎなみ掲載コラム集／開設10周年記念特別対談シリーズ